

『選挙に行く意味』

日高 矢翔

みなさんは、選挙に行く意味について考えたことはありますか。だれに投票するかを考えず、周りの意見にながされ、投票しても変わらないと思っていませんか。私はその中の1人でした。特に何も考えずに1票を投じていました。では、選挙とはどんなものでしょうか。

「選挙」とは、より良い暮らしを願って、私たちの代わりにその思いを実現してくれる人々を選ぶ仕組みのことです。ですが、もちろん自分が思い描く未来がすぐに実現する訳ではありません。それでもなぜ投票に行かなければならないのでしょうか。それは、私たちが国の方針を決める主権者だからです。

「国民主権」といって、「国民の意思に基づき行使され、政治のあり方を決定する力である主権は国民のものである。」という民主主義の3原則の1つです。この主権を反映させる行為が「投票」です。投票とは、国民にとって意見や価値観を代弁する重要な手段であり、それによってよりよい未来を築くための一歩となります。

なので、投票を行う事がとても大切なのですが、今の日本では若者の投票率が極めて低いという問題があり、若者の政治や選挙に対しての関心が低く理解できていない事が見られます。折角ある選挙権が本当はどれだけ大切で先人の方たちが苦勞して手に入れた物なのかを理解していないのです。

日本の歴史を遡ると、1889年に大日本帝国憲法と衆議院議員選挙法により、高額納税者の満25歳の男性のみが選挙権を持ちました。この時点で人口の約1%の人しか参加する権利が与えられませんでした。それ以外の人々には選挙権がなく、国政は一部の国民によって運営されていたのです。それがどんなに恐ろしいものかという、理不尽な法律、国民に一方的な不利益を強いる法律が無条件に通ってしまい、それにより国民は人権を制限されたり、財産を没収されたりと様々な無理難題を押し付けられるのです。選挙権がないということは、そうした理不尽な仕打ちを受けても、それに対抗する手段がないので、国民は全くの無抵抗状態となるのです。そんな苦しい状況を変えようと、先人の方たちが多くの困難を乗り越え、努力した結果1945年衆議院議員選挙法改正により満20歳以上のすべての国民に選挙権が与えられたのです。

選挙権とは、気が付いたらそこにあったものではなく、努力してつかみ取ったものなのです。今の若者は選挙権の大切さと、選挙に参加しないという事がどれだけ将来に危険が及ぶのかを理解しなければなりません。

そして現在18歳以上の人に引き下げられたのですが、若者が極めて低い投票率となっています。

ではなぜ、若者が率先して選挙に参加しなければならないのか。それは、投票率が低いということはその世代の意思が政治に反映されにくくなるからなのです。つまり、若者の

投票率が低いと若者に向けた政策が実現しにくく実現するのに時間がかかってしまう可能性があるのです。

では、どうしたら若者の投票率が上がるのでしょうか。現状として若者が政治について知ることが出来る場が必要なのだと考えました。かといって政治や選挙に関する講習、セミナーを開いたところで、参加者も少なく、投票率が上がるとは思えません。私たち若者は、政治に関する情報を集め、情報交換の場として SNS を通し、話しやすい環境を作る事が大事であり、そのためにも、一人がみんなの為に動くことが大切なのです。

私は若者が社会において影響力を持つことの重要性を強く信じています。選挙に参加する事は、私たちの世代が変革をもたらすための手段の一つであり、選挙で私の声を届ける事は、社会の発展に貢献し、共に生きる地域や国をよりよくするための責任だと考えています。だからこそ、選挙に参加し、私の声を反映させるために積極的に投票に行くことが重要なのです。それが私の選挙に行く意味です。